

## 書籍紹介

## 緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室 編 『大阪の除痘館』〈改訂・増補 第2版〉

本書の初版は、昭和58年に第21回日本医学会総会が大坂にて開催されたのを記念して、旧財団法人・洪庵記念会により出版されている。その後、記念会は平成19年の第108回日本医史学会総会大阪開催にあわせて「除痘館記念資料室」を開設した。平成23年には「緒方洪庵生誕200年記念」として〈改訂・増補版〉を出版している。その監修には（故）芝哲夫、加藤四郎、古西義麿、米田該典、浅井充晶の諸氏があたっている。今回発行法人名が緒方洪庵記念財団となり、〈改訂・増補 第2版〉として出版された本書は「緒方洪庵没後150年記念」である。洪庵の生涯がわずかに52年であったことの短さと、その短い人生で日本の近代化の中でなした功績の大なることに、あらためて感動する。

本書は加藤四郎氏による「天然痘（痘瘡）について」の総説につづき豊富な資料集として編まれている。くわえて、次の論考が掲載されており、人痘種痘法と牛痘種痘法の歴史的解説にとみ、資料集を超える出版物となっている。

- |  |         |
|--|---------|
| I. 天然痘（痘瘡）との闘い<br>—除痘館活動の前提—                   |         |
| ・人痘種痘法 variolation から牛痘種痘法 vaccination へ（加藤四郎） | 10      |
| ・エドワード・ジェンナーと牛痘種痘法の開発（加藤四郎）                    | 12      |
| ・牛痘種痘苗（モーニケ苗）の伝来と展開（加藤四郎）                      | 14      |
| II. 大阪の除痘館—資料による歩み—                            |         |
| ・大阪の除痘館と緒方洪庵（浅井充晶）                             | 15      |
| ・緒方洪庵と緒方郁蔵（古西義麿）                               | 68      |
| ・古手町除痘館記念碑の建立（川上 潤）                            | 76      |
| ・尼崎町「除痘館跡」記念銘板（川上 潤）                           | 77      |
| ・除痘館を支えた人々（古西義麿）                               | 78      |
| ・人痘種痘法と牛痘種痘法—緒方洪庵の種痘事業をめぐる—（米田該典）              | 96      |
|  | （渡部 幹夫） |

[緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室, 〒541-0042 大阪市中央区今橋3丁目2-17 緒方ビル, TEL. 06(6231)3257, 2013年4月, B5判, 103頁, 非売品]

## 池本卯典・吉川泰弘・伊藤伸彦 監修

### 『獣医学概論—獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠』

平成16（2004）年の国立大学法人化を機に日本学術会議で教育の質の保証が議論され、獣医学の分野では同年の「獣医学専門教育課程の標準カリキュラム」をもとに「平成23年版 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」が作成された。本書はそれに準拠した標準的獣医学概論。

全10章のうち1章（第2章）、本文143頁のうち38頁が「獣医史学」に充てられており、「モデ

ル・コア・カリキュラム」および本書における編者らの獣医史学への関心の高さが伺える。

日本における西洋獣医学の導入においては、幕末にフランス人騎兵教官の教えを受けた元幕府馬医深谷周三が陸軍獣医官の養成をはじめ、その後もフランス陸軍の獣医教官を招聘、フランスの獣医学校に留学生を派遣していたことなどが興味深い。また、家畜伝染病と人獣共通感染症の歴史な

どもやや詳しく記載されている。  
贅沢を言えば、出典や参考文献の記載が欲しいところ。

第1章 獣医学概論の理念	12
第2章 獣医史学	28
2-1 はじめに	28
2-2 古代文明の発祥と獣医療	29
2-3 西洋における獣医療の進展	31
2-4 東洋における獣医療の進展	34
2-5 日本における獣医療の進展	36
2-6 日本における西洋獣医学の導入と 獣医療の進展	44
2-7 主な家畜伝染病の歴史	50
2-8 獣医療の変遷と獣医史学	54

2-9 おわりに	57
獣医史学年表	58
第3章 伴侶動物獣医師の役割	66
第4章 産業動物獣医師の役割	78
第5章 行政獣医師、公衆衛生獣医師の役割	90
第6章 野生生物保全と獣医師	98
第7章 教育・研究分野および企業と獣医師	106
第8章 獣医師と国際関係	118
第9章 獣医学の隣接科学と獣医療関係職種	130
第10章 獣医療サービスの質の保証	150
	(逢見 憲一)

[緑書房, 〒103-0004 東京都中央区東日本橋 2-8-3  
東日本橋グリーンビル, TEL. 03 (6833) 0560,  
2013年6月, B5判, 168頁, 3,000円+税]

若木太一 編

『長崎 東西文化交渉史の舞台  
——ポルトガル時代 オランダ時代——』

大航海時代から近代に至る長崎学の意味は現在の日本において考えられているよりも、世界史の中では大きなものである。長崎から世界に紹介された日本は「天下泰平」の中にあつたようにつたわが、「東西文化交渉」の中心にあつた長崎は平穏な毎日でなかつたと考えられる。本書は長崎または九州の現場をよく知る多くの著者による論文にて編まれている。著者の一人川口敦子は次のように述べている。『長崎に関する重要な資料の大部分が、長崎ではなく、海外に存在する。……日本、そして長崎に関わる貴重な資料を四〇〇年以上も保管してきた海外の図書館・文書館に敬意を表すと同時に……日本側の関係者も適切に関わっていくべきであろうと思う点もある。』本書は次の論文よりなるが、長崎についての現在の日本の研究者の到達点と文献が網羅された成書として紹介する。

第一部 ポルトガル時代	
教会のある町長崎	片岡千鶴子 3
日本のセミナリョ・コレジヨにおける 国際人教育	片岡瑠美子 23
南蛮系宇宙論の成立と展開	平岡隆二 41
【コラム】天正遣欧使節と千々石ミゲル —何故にミゲルは棄教したのか?—	大石一久 74
カクレキリシタンにおけるオラショの 変容とその意義について	宮崎健太郎 80
ヨーロッパの図書館・文書館の長崎関係 キリシタン資料	川口敦子 106
【コラム】日本におけるキリシタン墓碑の 様相	大石一久 128
第二部 オランダ時代	
平戸オランダ商館の設置前後	久家孝史 137
儒医向井元升と西洋医学・薬学の受容に ついて	ヴォルフガング・ミヒェル 161

【コラム】出島商館長クライヤーによる 日本植物研究	
	ヴォルフガング・ミヒェル 187
オランダ通詞富永仁兵衛と VOC の情報収集	
	イサベル・田中・ファンダーレン 194
長崎遊学者のその後	
—梅園・玄沢・江漢を中心に—	
	本間貞夫 218
志筑忠雄訳「鎖国論」の流布と影響	
	大島明秀 242
長崎から発信された翻訳世界と近代への志向	
—アヘン戦争と清屈服後の十九世紀 国際環境の中で—	岡田袈裟男 267

シーボルトの日本研究とその支援者としての 美馬順三ならびに吉雄権之助	宮坂正英 297
【コラム】「慶賀魚図」とシーボルト・ビュルガー の日本魚類研究	平岡隆二 322
近代的な科学技術と医学の組織的導入	
—海軍伝習—	相川忠臣 332
【コラム】シーボルト事件と幕末の国学	吉良史明 356 (渡部 幹夫)
[勉誠出版, 〒101-0051 東京都千代田区神田神 保町3-10-2, TEL. 03 (5215) 9021, 2013年9月, A5判, 375頁, 4,000円+税]	